

令和7年度
人生を豊かにするための学びに関する調査
報告書のポイント

令和8年3月

第1章 調査概要

1. 調査の目的

人生100年時代においては、長い人生を見据え、固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見・固定観念、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）にとらわれずに、「教育、仕事、老後」という単線型の人生設計ではなく、人生ステージに応じた様々な働き方、学び方及び生き方を選ぶよう、主体的なライフキャリア形成が重要となっている。

急速なテクノロジーの進展・利活用の広がりの中で、デジタルを始めとするビジネススキルの習得は、人生における多様な選択を可能にし、所得向上・経済的自立にもつながることが期待されるが、企業における教育訓練の受講割合は、女性よりも男性の方が高く、非正規雇用労働者よりも正規雇用労働者の方が高くなっている。また、出産・育児等によりキャリアのブランクがある女性が再就職に踏み出せない背景として、自身の過去の就業経験やスキル等に不安を感じていることが考えられる。

加えて、女性も男性も、仕事以外に個人としての多様な活動に参加し役割を持つことが、生涯にわたり豊かな人生をもたらすと考えられるが、変化の激しい現代社会においては、それらの活動においても、継続的な学び直しが重要であり、様々な学びの積み重ねは、人々の多様な幸せ（well-being）の向上にもつながると考えられる。

こうした問題意識の下、男女、年代別等に、人生を豊かにする学びに対する関心や意識の傾向を明らかにするとともに、学びを促進、継続するために求められる支援等を把握することで、男女共同参画の視点を踏まえた生涯学習や能力開発の推進に向けた検討材料とする。

2. 調査検討委員会

本調査を効果的に遂行するため、有識者からなる調査検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置し、調査対象の割当方法や調査事項、調査票の設計、集計結果の分析方法、報告書（案）等に関して検討を行った。

構成（主査以外は五十音順・敬称略）

氏名	所属・役職
【主査】山田 久	法政大学経営大学院 イノベーション・マネジメント研究科 教授
井上 恵理菜	株式会社日本総合研究所 調査部 副主任研究員
大嶋 寧子	リクルートワークス研究所 研究センター研究1グループ長 主任研究員

3. 調査方法・調査対象

調査方法	インターネット・モニターに対するアンケート調査 (株式会社マーケティング・アプリケーションズの登録モニターが対象)
調査名	人生を豊かにする学びに関する調査
調査対象	国内在住のインターネットパネル登録モニター（20歳以上69歳以下）

4. 調査期間

令和7（2025）年12月2日（火）～12月15日（月）

5. サンプル割付方法

(1) 回収数：20,000人

(2) サンプルの割付及び回収状況

令和2年国勢調査 就業状態等基本集計における性×年代×就業状態・雇用形態別人口の分布に基づき割付を行い、①のとおり回収した。おおむね割付どおりの回収数となった。

①【本調査回収数】（本調査の調査項目による分類）

- 正規雇用：正規の会社員・職員・従業員、会社経営者・役員
- 非正規雇用：非正規の会社員・職員・従業員（パート・アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託等）
- その他有業：自営業・自由業、自家営業の手伝い（家族従事者）、家庭内の賃仕事（内職）その他（働いている）
- 無業：学生（社会人経験あり）、主婦・主夫（働いていない）、その他（働いていない）

		正規雇用	非正規雇用	その他有業	無業	合計
男性	20代	920	251	41	125	1,337
	30代	1,403	141	107	129	1,780
	40代	1,877	135	202	170	2,384
	50代	1,672	134	214	195	2,215
	60代	802	415	292	637	2,146
女性	20代	766	363	23	199	1,351
	30代	764	510	74	435	1,783
	40代	886	891	122	509	2,408
	50代	734	860	138	567	2,299
	60代	283	661	189	1,164	2,297
合計		10,107	4,361	1,402	4,130	20,000

また、モニター調査の特性から、最終学歴の構成比が実態と乖離することが懸念されたため、「大卒」の構成比が大きくなりすぎないように回収を行った。なお、回収可能数の制約から、性別×学歴の4区分での割付とした。

令和2年国勢調査 就業状態等基本集計における性×最終卒業学校の種類別人口の分布に基づき、②のとおり回収した。

②-1【本調査回収数】（本調査の調査項目による分類）

- 非大卒：小学校・中学校、高等学校、専門学校（中学校卒業後）、専門学校（高校卒業後）、高等専門学校（5年制）、短期大学
- 大卒：大学（学士）、大学院（修士）、大学院（博士）
- その他：その他

	非大卒	大卒	その他
男性	5,918	3,821	123
女性	7,729	2,294	115

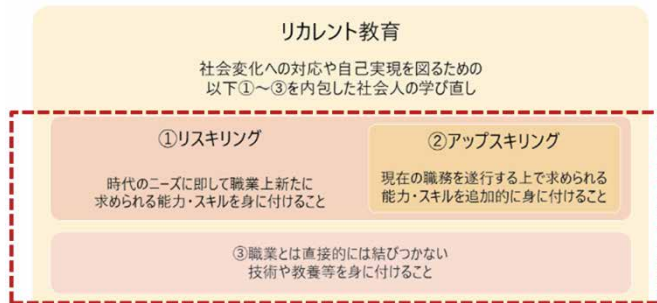
②-2【本調査構成比（非大卒／大卒の構成比）】※割合の算出に当たり、その他は除外

	非大卒	大卒	その他
男性	60.8	39.2	-
女性	77.1	22.9	-

6. 報告書内で使用する言葉の定義

本調査で対象とした学びの整理

- 本調査では、「学び」を“人生を豊かにする学び”と広く捉えて調査を実施した。
- ここで言う「学び」は、職業上の知識・技術を獲得するだけでなく、自分自身をよりよく変化させる（変化させたい）取組・活動とし、「職業とは直接的には結びつかない技術や教養等を身につけること」には、自己啓発を含み、趣味・習い事や人との交流なども学びの一手段と整理した。



「リカレント教育」とは、元来はいつでも学び直しができるシステムという広い意味を持つものであるが、本議論の整理では、キャリアチェンジを伴わずに現在の職務を遂行する上で求められる能力・スキルを追加的に身に付けること（アップスキリング）や、現在の職務の延長線上では身に付けることが困難な時代のニーズに即した能力・スキルを身に付けること（リスキリング）の双方を含むとともに、職業とは直接的には結びつかない技術や教養等に関する学び直しも含む広義の意味で使用する。

出典：文科省資料（第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理を踏まえたイメージ図）

- 具体的には、次の6つの事項について、「過去1年以内に学んだ」「過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ」「過去5年間で学んでいない」を選択肢として、学びの状況を把握した。

Q.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。

本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- i. 仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること
 - ii. 家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること
 - iii. 文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること
 - iv. 地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること
 - v. 健康に関すること
 - vi. その他
- また、我が国においては、20-69歳の8割超が就労していること、人生100年時代において有償・無償の区別なく働く期間が長くなっている現状を踏まえ、「i.仕事や職業キャリアに関すること」の学びの状況についても集計・分析を行った。

(1) 広義の学びに対する意識

男女ともに「学びたいという意欲は少なからずみられる一方、実際の学習経験（行動）は限定的」という傾向が確認された。

ポイント	詳細	参照先
能力向上につながる学び直しへの意欲は若い年代ほど高い	<ul style="list-style-type: none"> 人生をより良くするために「新しいことを身につけたい」「いまの自分の能力やスキルを更に磨きたい」という気持ちは、男女ともに若い年代ほど高い。 	P22
学びへの意欲は上の年代ほど高い	<ul style="list-style-type: none"> 学びを6つの項目【仕事や職業キャリア／家庭や日常生活／文化・教養／地域活動や社会貢献活動／健康／その他】に分類し、各項目について「学びたいと思うか」を5段階で尋ねた。 その結果、いずれか1項目以上で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者（＝広義の学びへの意欲がある層）の割合は、男女とも6～7割程度で、上の年代ほど高い。特に女性60代で割合が高い。 	P24
学びの関心領域は「健康」が中心	<ul style="list-style-type: none"> 学びたい項目は男女ともに「健康」が最上位（5割程度）。 学びの経験でも男女ともに同項目が相対的に高い。 	P23、25
意欲と行動の乖離	<ul style="list-style-type: none"> 学びへの意欲は男女ともに約7割と相当程度みられる一方、過去1年以内に学びの経験がある者は男女とも3割程度にとどまり、全体として「意欲はあるが学んでいない」割合が高い。特に40代から60代女性で意欲との差が大きい。 	P24、26
学びの場所・形態は独学中心	<ul style="list-style-type: none"> 学びの場所・形態では、男女ともに独学の割合が最も高く、特に「独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）」による学習が高い。 男性20代で「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」の割合が約14%とやや高めになっていることが特徴的で、女性を含む他の性・年代と比べて高く、女性20代と比較すると2倍以上。 	P27、28
学びの効果	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに、約9割が何かしらの学びの効果を感じている。 女性は「日々の暮らしに役に立った」「興味・関心の幅が広がった」「心身の健康につながった」、男性は「興味・関心の幅が広がった」「教養が深まった」「日々の暮らしに役に立った」が上位。 	P29
学びの阻害要因は費用・時間・選択困難	<ul style="list-style-type: none"> 学んでいない理由は「費用」「時間」「何を学ぶべきか分からない」が中心。上位理由は女性は「費用」、男性は「仕事多忙による時間不足」。 	P31
今後の学びに必要なことは「情報」と「活用の場」	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに「学びに関する情報（内容・時間・場所・費用など）」と「学んだことをいかせる場所」が上位。 	P34
学ぶことへの意識	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに「費用をかけたくない」意識が強い。 加えて、女性は年齢を問わない能力向上、男性は社会変化に対応するために学び続ける意識が強い。 	P37
学びに関する配偶者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに「支援・理解あり」と「否定的・無関心・分からない」の割合は概ね均衡している。 	P38

(2) デジタルツールに関する知識やスキルに対する意識

デジタルツールの習得意向が一定程度みられる一方で、習得意向のない層も大きいという傾向が確認された。
※本調査は、インターネット・モニターを対象とした調査であるため、インターネットリテラシーの高い層に偏るなどのバイアスが生じている可能性がある。

ポイント	詳細	参照先
習得意向は「生活の利便」と「仕事・キャリア」の両面	<ul style="list-style-type: none"> 身につけたい理由は「快適で便利な生活を送るため」が上位である一方、仕事に関する理由（「現在の仕事を続けるため」「キャリアアップ」「転職」等）も一定割合みられる。 また、「特に身につけたいとは思わない」も男女とも4割前後と高い。 	P52
保有スキルは「生活者としての利用」が中心	<ul style="list-style-type: none"> 現在のスキルは「スマホでの電子決済・オンラインショッピング」「SNS閲覧」など、日常生活で使う領域が男女ともに上位を占める。 	P53
今後の習得意向もトップは生活スキル、次点は仕事関連だが男女で志向に差	<ul style="list-style-type: none"> 身につけたいスキルの最多は「電子決済・オンラインショッピング」。 続いて女性が「オフィス系ソフト・実践的PCスキル」、男性が「生成AIを活用した業務効率化」で、志向に差がみられる。 	P54
非習得意向の理由は「理由なし／必要性なし」が中心	<ul style="list-style-type: none"> 身につけたいと思わない理由は「特に理由はない」「必要性を感じない」が主要で、特に男性で「特に理由はない」が高い。 	P55

(3) 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

仕事・職業キャリアに関する学びは、就業状態や性別によって目的・学習内容に違いがみられ、費用・時間・情報不足等が学びの障壁になっている傾向が確認された。

ポイント	詳細	参照先
無業者の就業意欲	<ul style="list-style-type: none"> 働く意欲がある層では、女性は「パート・アルバイト」希望が相対的に高く、男性は「正社員」希望が相対的に高い。 性・年代により希望形態に差がみられる。 	P57
仕事観	<ul style="list-style-type: none"> 男女とも「ワーク・ライフ・バランス重視」が最も高いが、女性の方が高い。 	P58
学びの形態	<ul style="list-style-type: none"> 仕事・キャリアに関する自発的な学びは男女ともに「独学」が中心で、書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索、動画配信サイト等が高い。 会社等の指示による学びでは、男女ともに社内教育やOJT等も活用される。 	P59、61
学びの内容（男女差）	<ul style="list-style-type: none"> 学びの内容には男女差がみられ、女性は「対人スキル、コミュニケーション」「語学」「教養・ビジネスマナー」等が相対的に高く、男性は「IT関連、デジタルツール」「経済、社会、政治、歴史」等が相対的に高い。 	P64
学習投入（時間・費用）	<ul style="list-style-type: none"> 1か月あたりの学習時間・費用には幅がある。 学習時間は「4時間未満」が最多で、女性の方が「4時間未満」の割合が高い。また、次に多く挙げられたのは、「16時間以上」で、男女とも2割を超えている。 費用は「0円」が最多で、女性の方が「0円」の割合が高い。 	P67、68
学習環境（コミュニティ）	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに正規雇用者は「積極的な社外の人との付き合い」、「自主的な勉強会」、「職場の学びの風土」等が相対的に高い。 女性非正規雇用者・その他有業者・無業者は「学び合う仲間・友人」が高い。 なお、男女とも全体で見ると、「該当するものはない」との回答が4～5割に上っている。 	P69、71

ポイント	詳細	参照先
学びの目的 (就業状態・雇用形態別)	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに有業者は「現在の仕事に必要な知識・技能の習得」が高い。また、男女ともに無業者は、今後の仕事への準備や再就職に向けた準備を目的とする傾向がある。 	P74
学びの効果 (仕事・キャリア)	<ul style="list-style-type: none"> 過去5年間の学びについて、「現在の仕事やキャリア、転職、再就職などにいかせていると思うか」を4段階で尋ねたところ、「いかせている」「どちらかといえばいかせている」の計（＝学びの主観的な効果を感じている層）の割合は男女とも6割以上で、男性の方が高い。 また、「将来的に、仕事や昇給・昇進・昇格、転職、独立等のキャリアアップにつながると思うか」についても4段階で尋ねたところ、「つながると思う」「どちらかといえばつながると思う」の計（＝学びの効果を期待している層）は、男女とも約7割。 	P75、76
学びの障壁と今後学ぶために必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> 障壁として男女ともに「金銭的余裕がない」「時間がない」「収入アップにつながらない」「何を学んでいいかわからない」等が挙げられる。 今後学ぶために必要なこととしては男女ともに「経済的支援」「学びが収入アップやキャリアアップにつながること」「学びに関する情報」「学びの機会」等が上位に挙げられる。 	P77、83
就業先の支援	<ul style="list-style-type: none"> 男女とも非正規雇用よりも正規雇用の方が様々な取組・支援がある。 	P82
仕事や働き方、職業キャリアの満足度	<ul style="list-style-type: none"> 仕事や働き方、職業キャリアの満足度は、男女ともにいずれの項目も2～4割程度に留まる。 	P86
今後学びたいスキル (男女差)	<ul style="list-style-type: none"> 今後学びたい領域は男女差がみられ、女性は「語学」「心理学、カウンセリング」等、男性は「IT関連、デジタル」「経済、社会、政治、歴史」等が相対的に高い。 	P87

（４）役割や居場所に対する意識

ポイント	詳細	参照先
役割や居場所に対する意識	<ul style="list-style-type: none"> 役割・居場所があると感じている割合は、男性が女性より低く、特に中高年で男女差が大きい。 男女ともに学びの経験がある層は、学びの経験がない層に比べて、役割・居場所があると感じている割合が高い。 男女ともに学びの経験がある層のなかでも、1年以内に学んだ層は、5年以内に学んだ層より高い。 	P92～97

第3章 1. 調査結果からみえた学びに関する課題とポイント

本調査の目的は、男女共同参画の視点から、人生を豊かにする学びに対する関心や意識の傾向を明らかにするとともに、学びを促進、継続するために求められる支援等を把握することであった。第2章の結果を踏まえると、学びに関して以下の課題が示唆された。

第2章の結果からみえた学びに関する課題

ポイント	課題	参照先
学びへの意欲はあるが、行動に至れない	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに、学びへの関心・意欲がある一方、過去1年以内の学習経験が限定的で「学んでいない」層が大きい（特に40代から60代女性）ため、行動につなげる仕組みが課題。 	P24、26
学びの主たる阻害要因（費用・時間・学ぶ内容への迷い）への対応	<ul style="list-style-type: none"> 広義の学びについて、学んでいない理由の上位は、女性では「費用がかかる」「何を学んでいいかわからない」、男性では「仕事が忙しくて時間がない」「何を学んでいいかわからない」などである。 また、仕事や職業キャリアに関する学びについて、主な障壁は、女性では「金銭的余裕がない」「学んでも収入アップにつながらない」、男性では「金銭的余裕がない」「仕事が忙しくて時間がない」などである。 これらを踏まえ、費用負担の軽減、学びの時間の創出、費用をかけずに学べる内容や学習機会・場に関する情報提供、学習内容選択の迷いを解消するための選択支援の構築が課題として挙げられる。 	P31、77
学びに関する「情報」と「活用の場」が不足している	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに、今後の学びのために必要なこととして「情報（内容・時間・場所・費用など）」と「活用の場」が上位であった。 これらの不足をどのように解消すべきかが課題。 	P34

また、課題として断定するものではないが、学びの促進・継続に資する示唆が得られたため、以下の4領域に整理した。

(1) 広義の学びに対する意識からみえたポイント

(2) デジタルツールに関する知識やスキルに対する意識からみえたポイント

(3) 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識からみえたポイント

(4) 役割や居場所に対する意識からみえたポイント

第3章 1. 調査結果からみえた学びに関する課題とポイント

(1) 広義の学びに対する意識からみえたポイント

ポイント	詳細	参照先
学びの関心事は「健康」から	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに、関心が「健康」に集中している。 健康を入口として他領域へ関心が広がるような“つなげ方”ができれば、学びの関心領域が拡張する可能性がある。 	P23
学び方の多様化	<ul style="list-style-type: none"> 学び方は男女ともに独学が中心で、独学は制約が少なく、気軽に取り組みやすい。 一方、講座・教室等や、同好者が自主的に行っている集まり・サークル活動などの外部の学習機会の利用は、学習の効果につながる要因となっている。学び方の選択肢を増やすことで、学びの開始・継続を後押しできる可能性がある。 	P27、42
学びへの費用負担に対する抵抗感	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに、学びに費用をかけたくない意識が強い層には、低負担・低価格で始められる学習機会の情報提供を通じて、学びの開始を後押しできる可能性がある。 	P37
学びに関する配偶者の理解が得られにくい層への対応	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに、学びに対して配偶者が「積極的に支援してくれる」又は「理解がある」とする割合は半数未満。配偶者の理解を前提とせず始められる学び（時間・費用・参加形態等のハードルが低い学習機会）があれば、学びの開始を後押しできる可能性がある。 	P38

(2) デジタルツールに関する知識やスキルに対する意識からみえたポイント

ポイント	詳細	参照先
「習得意向なし」層の大きさ	<ul style="list-style-type: none"> 「身につけたいと思わない」とする層が男女とも4割前後存在する。この層に対しては、まず習得意向を喚起するきっかけづくりを行うことで、デジタルツールへの関心を高められる可能性がある。 	P52
生活スキル中心から仕事スキルへの橋渡し	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに、保有スキルは日常生活で活用する領域が上位を占める。 こうした生活スキルを起点に、仕事・生産性領域へ展開できるスキルを提示できれば、仕事・キャリアにもいかせる可能性がある。 	P53
習得ニーズの男女差への対応	<ul style="list-style-type: none"> 生活スキルに続いて身につけたいスキルは、女性ではPC関連スキル、男性では生成AI活用と傾向が異なる。 ニーズの違いが起きる背景を検証し、ニーズに応じた学習内容を設計し、提供することが求められる。 	P54
非意向理由は「理由なし／必要性なし」が中心	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに、時間・費用以前に、必要性が理解・納得されていない層が一定数存在する。 このため、「何ができるようになるか」等、習得によって得られる効果や活用場面を具体的に示すことが求められる。 	P55

第3章 1. 調査結果からみえた学びに関する課題とポイント

(3) 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識からみえたポイント

ポイント	詳細	参照先
ワーク・ライフ・バランス重視下での学び時間確保	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに、仕事観として仕事と生活の両立を重視する傾向が強い。 このため、短時間で完結する学習や隙間時間で取り組める学習など、生活リズムに合わせた学びの時間設計が求められる。 	P58、67
学ぶ局面への支援	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに、会社等の指示による学びが「ない」層が一定存在する。 このため、本人が学習機会を探し、選べるよう、学びに関する情報提供が求められる。 	P59、83
学習内容ニーズの違いへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 学びの内容や今後学びたい領域には男女差がみられる。 ニーズの違いが起きる背景を検証し、ニーズに応じて学習内容を設計し、提供することが求められる。 	P64、87
学習環境（コミュニティ）の不足	<ul style="list-style-type: none"> 「該当するものはない」が最多で、女性の割合が相対的に高い。 相談先や学び合いの機会（仲間・コミュニティ等）にアクセスできていない可能性があるため、コミュニティに関する情報提供が求められる。 	P69
学びの目的の違いへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 就業状態によって学びの目的が異なる。 男女ともに、有業者は「現在の仕事に必要な知識・技能の習得」が中心である一方、無業者は「今後の仕事への準備」「再就職に向けた準備」を目的とする傾向がみられる。 このため、目的に応じた学習機会に関する情報提供が求められる。 	P74
学びの障壁への対応	<ul style="list-style-type: none"> 費用・時間・情報が学びの障壁として挙げられ、今後の学びに必要なこと（収入アップへの接続、支援、学びに関する情報）とも整合する。 低負担で学べる機会を見つけやすくする情報提供が求められる。 	P68、77、83
仕事・キャリア満足度が低い層を踏まえたキャリア形成支援	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに、仕事や働き方、職業キャリアの満足度が低い層が一定数みられる。 また、学びの障壁や今後の学びに必要なことも明らかになっている。 これらを踏まえ、学びを通じたキャリア形成を支える学習環境の整備が求められる。 	P77、83、86

(4) 役割や居場所に対する意識からみえたポイント

ポイント	詳細	参照先
学び未経験層の支援の必要性	<ul style="list-style-type: none"> 学びの経験がない層では、役割・居場所感が相対的に低い傾向がみられる。特に若年層ほどその傾向が強く、男性20代が顕著である。 また、役割・居場所感の男女差が大きい年代は60代で、学びの経験がある層及び学びの経験がない層ともに、男性60代は女性に比べて低い。なお、同好者が自主的に行っている集まり・サークル活動などの外部の学習機会の利用は役割・居場所感につながる可能性がある。 このため、学びの機会が必要な層に届くよう、学び未経験者が参加しやすい入口（参加ハードルの低減）の設計が求められる。 	P93、94

第3章 1. 調査結果からみえた学びに関する課題とポイント

第2章の結果から、学びに対する意欲は相当程度確認される一方で、学習経験は限定的であり、意欲と行動の間にギャップがみられることが明らかになった。また、学習経験者では学びの効果を主観的に実感している割合が高く、役割意識や居場所感といった生きがいに関連する指標も相対的に高い傾向がみられた。これらを踏まえると、施策上の着眼点は「意欲をいかに行動に移すか」にある。

さらに、学びの経験がない層で役割意識や居場所感が低い傾向にあることから、学びの機会への参加を後押しすることが、役割意識や居場所感の向上に資する可能性が示唆される。

ここまで、学びの実践に向けた課題を全体傾向及び性年代別の視点から俯瞰してきた。これらの視点は、施策の大きな方向性を定める基礎情報として有用である一方、より具体的な支援策を検討するためには、学びの実践に至っていない層の内実を掘り下げる分析が不可欠である。

次頁以降では、「学びへの意欲があるが学べていない層」に焦点を当て、その属性や意識、課題認識を分析する。なお、分析にあたっては性別による差異にも着目する。

本分析の概要

(1) 本分析の目的

本章では、「学びへの意欲があるが学べていない層」に着目し、男女別の属性及び学びに対する関心・意識の傾向を把握する。あわせて、意欲を実践につなげている「学びへの意欲があり学べている層」と比較し、両者における属性及び学びに対する関心・意識の差異を整理する。

なお、「学びへの意欲があるが学べていない層」「学びへの意欲があり学べている層」については、以下のセグメント定義に基づき分類し、分析を行う。

(2) セグメントの定義

学びへの意欲（Q22）と学びの経験（Q23）を用い、2つの項目を掛け合わせることで、回答者を4区分に分類した。定義は以下のとおりである。

学びへの意欲（Q22）

※選択肢：「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」「分からない」

学びへの意欲あり：Q22の6項目のいずれかで、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選択

学びへの意欲なし：Q22の6項目のいずれかで、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を選択
ただし、全ての項目で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は選択していない

学びの経験（Q23）

※選択肢：「過去1年以内に学んだ」「過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ」「過去5年間で学んでいない」

学びの経験あり：Q23の6項目のいずれかで、「過去1年以内に学んだ」を選択

学びの経験なし：Q23の6項目のいずれにも、「過去1年以内に学んだ」を選択していない

セグメント4区分 ※学びへの意欲（Q22）×学びの経験（Q23）

学びへの意欲あり×学びの経験あり：I 意欲があり学べている層

学びへの意欲あり×学びの経験なし：II 意欲があるが学べていない層

学びへの意欲なし×学びの経験あり：III 意欲はないが学べている層

学びへの意欲なし×学びの経験なし：IV 意欲がなく学んでいない層

全体のサンプル数には、Q22 の6項目全てに「分からない」と回答したサンプル（女性：685S、男性：820S）を含む。なお、当該サンプルは学びへの意欲の有無が判別できないため、セグメント（I～IV）の分析対象外とした。各セグメントのサンプル数及び構成比は下表のとおりである。

		女性 (n=9,453)		男性 (n=9,042)	
		学びへの意欲		学びへの意欲	
		あり	なし	あり	なし
学びの経験	あり	I 意欲があり学べている層 2,952S、31.2%	III 意欲はないが学べている層 194S、2.1%	I 意欲があり学べている層 3,052S、33.8%	III 意欲はないが学べている層 229S、2.5%
	なし	II 意欲があるが学べていない層 4,058S、42.9%	IV 意欲がなく学んでいない層 2,249S、23.8%	II 意欲があるが学べていない層 3,382S、37.4%	IV 意欲がなく学んでいない層 2,379S、26.3%

第3章 2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(3) 「Ⅱ意欲があるが学べていない層」となる回答条件 (Q22×Q23)

前項のセグメント定義を、設問 (Q22・Q23) の回答と対応づけて示す。どのような回答が「Ⅱ 意欲があるが学べていない層」に該当するかを、以下に整理する。

Q 22 【全員】						
MtrxSA	あなたは、次のようなことを学びたいと思いますか。 本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。					
	(それぞれ、当てはまるものを1つ選択)	1	2	3	4	5
	→横に回答	1 そう思う	2 どちらかといえば そう思う	3 どちらかといえば そう思わない	4 そう思わない	5 分からない
i.	仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ii.	家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
iii.	文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
iv.	地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
v.	健康に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
vi.	その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

①赤枠内に1つ以上回答があれば、「学びへの意欲あり」

②青枠内に1つ以上回答があり、赤枠内に回答がなければ、「学びへの意欲なし」

6項目全て灰色枠内に回答した場合は、意欲不明のため、分析対象外

Q 23 【全員】				
MtrxSA	あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。 本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。			
	(それぞれ、当てはまるものを1つ選択)	1	2	3
	→横に回答	1 過去1年以内に学んだ	2 過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ	3 過去5年間で学んでいない
i.	仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ii.	家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
iii.	文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
iv.	地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
v.	健康に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
vi.	その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

①赤枠内に1つ以上回答があれば、「学びの経験あり」

②6項目全て青枠内に回答があれば、「学びの経験なし」

Q22で①に該当し、かつQ23で②に該当する場合、「Ⅱ 意欲があるが学べていない層」と判定する。

本分析のまとめ

Ⅱ 意欲があるが学べていない層の特徴（男女比較）

これまでの分析結果を踏まえ、「Ⅱ 意欲があるが学べていない層」のグループとしての特性（傾向）を、男女別に整理した。あわせて、男女の共通点・相違点を示すとともに、当該層において、割合が高い属性・生活スタイル・意識の特徴を以下に示す。

1) 属性

当該層において、割合が高い属性の特徴は、以下のとおり。

	女性Ⅱ	男性Ⅱ
年代	40～60代の割合が高い。	40～60代の割合が高い。
最終学歴	非大卒の割合が8割。	非大卒の割合が6割。
配偶者の有無	有配偶率は6割弱。	有配偶率は6割弱。
同居の子供の有無	19歳以上の子供と同居が2割。 同居の子供はいないが6割。	19歳以上の子供と同居が2割。 同居の子供はいないが6割。
就業状態・雇用形態	正規雇用、非正規雇用、無業がそれぞれ3割。	正規雇用の割合が7割。

2) 生活スタイル（Q8、Q9、Q12）

共通点	<ul style="list-style-type: none"> 自由時間、趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間は、男女で大きな差はみられない（自由時間：平均約6時間半、趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間：平均約2時間）。 仕事以外で参加している取組・活動は少ない。 	P124、 125、 127
相違点	<ul style="list-style-type: none"> 女性Ⅱは男性Ⅱに比べ、収入を伴う仕事時間が短く（平均5時間2分）、家事・育児・介護時間が長い（平均2時間59分）。 男性Ⅱは女性Ⅱに比べ、収入を伴う仕事時間が長く（平均7時間30分）、家事・育児・介護時間が短い（平均1時間）。 配偶者との家事分担割合は女性Ⅱが高い（女性Ⅱ平均81.2%、男性Ⅱ25.2%）。 女性Ⅱは男性Ⅱに比べ、仕事以外で参加している取組・活動が「特にない」が高い。 	P120、 122、 126、 127

3) 学びに関する意識・障壁・今後の学びに必要なこと（Q27、Q28、Q44、Q46）

共通点	<ul style="list-style-type: none"> 学びに対して「なるべくお金をかけたくない」が上位（女性Ⅱ62.1%、男性Ⅱ51.1%）。 今後学ぶために必要なことでは、「学びに関する情報」「経済的支援」が上位。 	P132、 133、 134
相違点	<ul style="list-style-type: none"> 学びの障壁で、女性Ⅱは男性Ⅱに比べ「家事等が忙しくて時間がない」「何を学んでいいかわからない」、男性Ⅱは女性Ⅱに比べ、「仕事が忙しくて時間がない」を挙げる割合が高い。 女性Ⅱは男性Ⅱに比べ、今後の学びに必要なことで、「学びに関する情報」「学ぶための経済的な支援」「参加しやすい時間帯に学びの機会があること」を挙げる割合が高い。 	P135、 136、 132、 139、 140

4) 役割・居場所に対する意識（Q49、Q50）

共通点	<ul style="list-style-type: none"> 現在・将来ともに「ある（そう思う計）」が約5割。 	P141、 142
相違点	<ul style="list-style-type: none"> 女性Ⅱは男性Ⅱに比べて、「ある（そう思う計）」が高い（現在：女性Ⅱ54.3%、男性Ⅱ47.5%、将来：女性Ⅱ52.8%、男性Ⅱ45.9%）。 	P141、 142

女性の「Ⅱ意欲があるが学べていない層」の特徴（「Ⅰ意欲があり学べている層」との比較）

ここでは、女性の「Ⅱ意欲があるが学べていない層」と「Ⅰ意欲があり学べている層」を比較し、両者における属性及び学びに対する意識の違いを以下に示す。

1) 属性

女性Ⅰと比べ、女性Ⅱで割合が高い属性の特徴は、以下のとおり。

	女性Ⅱ
年代	40～60代の割合が高い（20代の割合は低い）。
居住地	三大都市圏の居住率が低い（女性Ⅱ 57.8%、女性Ⅰ 60.7%）。
最終学歴	非大卒の割合が高い（女性Ⅱ 79.4%、女性Ⅰ 67.4%）。
配偶者の有無	有配偶率が高い（女性Ⅱ 55.2%、女性Ⅰ 52.4%）。
同居の子供の有無	19歳以上の子供の割合が高い（女性Ⅱ 22.3%、女性Ⅰ 17.7%）。
就業状態・雇用形態	正規雇用の割合が低く（女性Ⅱ 32.2%、女性Ⅰ 37.0%）、非正規雇用（女性Ⅱ 34.9%、女性Ⅰ 30.5%）及び無業（女性Ⅱ 28.5%、女性Ⅰ 25.6%）の割合が高い。

2) 生活スタイル（Q8、Q9、Q12、Q17）

女性Ⅱは女性Ⅰに比べ、趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間が短く、仕事以外の取組・活動への参加が少ない傾向。

特徴	詳細	参照先
生活時間	• 収入を伴う仕事時間、家事・育児・介護時間、家事分担割合はあまり差がない。一方、趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間は女性Ⅱの方が短い（女性Ⅱ：平均1時間58分、女性Ⅰ：平均2時間20分）。	P120、122、125、126
仕事以外の活動	• 女性Ⅱは「特にない」の割合が約8割と高く、活動率は女性Ⅰより低い。	P127
働き方	• 多様な働き方の利用は女性Ⅰに比べて低い。内訳では時短勤務の割合が相対的に高い。	P130

女性の「Ⅱ意欲があるが学べていない層」の特徴（「Ⅰ意欲があり学べている層」との比較）

3) 学びに関する意識・障壁・今後の学びに必要なこと（Q21、Q27、Q28、Q44）

女性Ⅱは女性Ⅰに比べ、新しいことやスキル向上など積極的な「学び直し」に対する意欲は低い傾向。他方、今後の学びに必要なことで上位に挙がる項目は概ね共通。

特徴	詳細	参照先
学び直しへの意欲	・女性Ⅱは6～4点、3～0点の割合が高く、女性Ⅰと差がみられる。	P131
学ぶことへの意識	・女性Ⅱでは「お金をかけたくない」が最も高い。一方、女性Ⅰでは「何歳になっても能力を伸ばし続けることができる」「社会の変化に対応するために学び続けることが必要」等が上位。	P133、 134
障壁	・女性Ⅰに比べ、女性Ⅱでは「何を学んでいいかわからない」「金銭的余裕がない」「周囲に学べる環境がない」が高い。	P135、 136
今後の学びに必要なこと	・女性Ⅱは「学びに関する情報」「学ぶための経済的な支援」が上位だが、女性Ⅰに比べ「学びに関する情報」及び「学んだことをいさせる場所」の割合が低い。	P132

4) 役割・居場所に対する意識（Q49、Q50）

特徴	詳細	参照先
役割・居場所に対する意識	・女性Ⅱは女性Ⅰに比べ、「役割・居場所がある（そう思う計）」の割合が低い。	P141、 142

男性の「Ⅱ意欲があるが学べていない層」の特徴（「Ⅰ意欲があり学べている層」との比較）

ここでは、男性の「Ⅱ意欲があるが学べていない層」と「Ⅰ意欲があり学べている層」を比較し、両者における属性及び学びに対する意識の違いを以下に示す。

1) 属性

男性Ⅰと比べ、男性Ⅱで割合が高い属性の特徴は、以下のとおり。

	男性Ⅱ
年代	50～60代の割合が高い（男性Ⅰは20～30代の割合が相対的に高い）。
最終学歴	非大卒の割合が高い（男性Ⅱ 60.9%、男性Ⅰ 52.2%）。
配偶者の有無	有配偶率が高い（男性Ⅱ 56.7%、男性Ⅰ 53.1%）。
同居の子供の有無	19歳以上の子供の割合が高い（男性Ⅱ 20.2%、男性Ⅰ 13.8%）。

2) 生活スタイル（Q8、Q9、Q12、Q17）

男性Ⅱは男性Ⅰに比べ、趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間が短く、仕事以外の取組・活動への参加が少ない傾向。

特徴	詳細	参照先
生活時間	• 収入を伴う仕事時間はあまり差がない。一方、家事・育児・介護の時間は男性Ⅱの方が短い（男性Ⅱ：平均1時間0分、男性Ⅰ：平均1時間24分）。	P120、122
自分のために使う時間	• 趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間は男性Ⅱの方が短い（男性Ⅱ：平均2時間6分、男性Ⅰ：平均2時間27分）。	P125
仕事以外の活動	• 男性Ⅱは「特にない」の割合が高く、男性Ⅰより活動率が低い。	P127
働き方	• 多様な働き方の利用は男性Ⅰに比べて低い。	P130

男性の「Ⅱ意欲があるが学べていない層」の特徴（「Ⅰ意欲があり学べている層」との比較）

3) 学びに関する意識・障壁・今後の学びに必要なこと（Q21、Q27、Q28、Q44）

男性Ⅱは男性Ⅰに比べ、新しいことやスキル向上など積極的な「学び直し」に対する意欲は低い傾向。また、学ぶことへの意識では費用面の項目が相対的に上位となる一方、学びの効果・目的に関する項目は男性Ⅰより低い。

特徴	詳細	参照先
学び直しへの意欲	・10～7点（高スコア）の割合は男性Ⅱで低く、男性Ⅰとの差がみられる。	P131
学ぶことへの意識	・男性Ⅱでは「学ぶことになるべくお金をかけたくない」が最も高い。一方、男性Ⅰでは「社会の変化に対応するために学び続けることが必要」「何歳になっても能力を伸ばし続けることができる」等が上位。	P133、 134
障壁	・男性Ⅱでは「金銭的余裕がない」が男性Ⅰより高い一方、「家事・育児・介護等が忙しくて時間がない」「学びに必要な情報が入手できない」は男性Ⅰより低い。	P135、 136
今後の学びに必要なこと	・男性Ⅱは「学びに関する情報」「学ぶための経済的な支援」が上位だが、男性Ⅰに比べ「学びに関する情報」及び「学んだことをいかせる場所」の割合が低い。	P132

4) 役割・居場所に対する意識（Q49、Q50）

特徴	詳細	参照先
役割・居場所に対する意識	・男性Ⅱは男性Ⅰに比べ、「役割・居場所がある（そう思う計）」の割合が低い。	P141、 142